令和６年度　研究推進計画

熊野町立熊野第四小学校

１．研究主題

主題　深い学びを実現する体育科の授業づくり
副題　～共生の視点を基盤にした課題発見解決型の体育科授業でのリフレクションタイムの活用を通して～

２．主題設定の理由

本校では過去４年間，「共生」「関わり合い」「熊四単元モデル」「振り返りの充実」をテーマに研究を進めており，それぞれの研究で成果を得ることができた。

「共生」は，新学習指導要領でも述べられている視点であり，運動が得意な児童のみならず，運動が苦手な児童や運動が嫌いな児童を含め，全ての児童に運動する楽しさを味わうことができる学習を仕組むことができた。「関わり合い」では，共生の視点をもつことができた学習集団を基盤に，関わり合いを通して課題解決していく体育科学習指導の実践を通して課題解決力の育成に取り組んだ。児童１人１人の表現力の向上や，運動が苦手な児童（抽出児童）の技能の伸びが成果として見られた。「熊四単元モデル」は課題を系統的に配置することで，児童に３つ資質能力をバランスよく育成できると考え，設定した。成果としては，児童の振り返りを活用して単元を構成していくことで，児童の課題を基に授業を展開し，児童はスモールステップで力を付けることができた。また，教職員も付けたい力や目指す子供像を念頭に単元をデザインすることができるようになった。しかし，全ての児童に振り返りの内容が定着していない実態があったため，「振り返りの充実」＝リフレクションタイムを設定した。リフレクションタイムとは，児童の「分かる」と「できる」を繋ぐために行う集団思考場面である。昨年度は，リフレクションタイムの基盤をつくるために，「手法」「発達段階」「意図的な場面設定」という３つの視点を設け，研究を進めた。成果としては，振り返りが大切であるという考えを多くの児童がもつことができたことや振り返りの質を高めることができたことが挙げられる。

今年度も昨年度の「振り返りの充実」と同様に学校教育目標とリンクさせ，「振り返りでチャレンジ」をテーマに研究を進める。今年度は以下の３つを中心に研究を進めていきたいと考える。１つ目は，リフレクションタイムの定義の明確化である。昨年度の研究の反省として，「リフレクションタイムとは何か」という問いに対して，全教職員で共通理解を図ることができていなかった。そのため，「分かりやすい」「すぐに取り組める」といった視点をもって定義を設け，共通理解を図ることで研究の充実に繋がると考えた。２つ目は，ＰＤＣＡサイクルを意識した授業づくりである。リフレクションタイムを活用して「Check」を行うことで，ＰＤＣＡサイクルの「Action」をより学びのあるものにできると考えている。「振り返って終わり」ではなく，リフレクションタイムで得た知識を生かす場面を設けるようにしていきたい。３つ目は，リフレクションタイムを派生させることである。本校では，「統一された授業スタイル」「表現力や聞く力を高めるトークタイム」というものに取り組んでいる。この２つの取組とリフレクションタイムを深く関連付けることができれば，リフレクションタイムの質の向上に加え，授業スタイルやトークタイムのレベルアップにも繋がると考える。以上，３つのことを中心に研究することを通して，深い学びを実現する授業づくりをしていきたいと考え，主題を設定した。

３．基本的な考え方

先述したように，本校では，「共生」の視点を踏まえた体育科の学習を通して，児童がお互いを認め合い，スポーツの特性や楽しさに触れることができるようにすることで，共感的な学級集団を形成することを目指して取り組んできた。体育科における「共生」とは，「体力や技能の程度，年齢や性別及び障害の有無に関わらず，運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるようにすること」とされている。本校では，「共生」の捉えを，**「①互いの違いを認め合う②自分の役割を果たそうとする③全員が楽しめるようにする」**としている。このような視点を取り入れた授業を実現するためには，誰もがスポーツの特性や楽しさを味わうことができるような教材を開発したり，学習指導を工夫したりすることが必要であり，前年度の研究を通して本校職員の指導力の向上に一定の成果があった。

「関わり合い」とは，**運動をする中で新しい課題を見付け，互いの動きを見合ったり，友だちと改善点を話し合ったりする中で，課題を解決していくこと**とした。「熊四単元モデル」では，単元全体を見通して，付けたい力を系統的

に据え，毎時間の授業を効果的に配列するために，**「誰でも・すぐに・簡単に」**を合言葉に体育科の単元モデルを構想できるようにすることで，児童に３つの資質能力をバランスよく育成することができた。「振り返りの充実」では，**リフレクションタイム（集団思考場面）を設定し，本時のめあてに関わる振り返りを全ての児童が当事者意識をもって行う**ようにしていくことで，主体的・協働的に学ぶ児童を育成することができた。今年度は昨年度取り組んだリフレクションタイムを更に充実させることを目標として取り組んでいく。

４．研究仮説

体育科の授業において，リフレクションタイムを充実させることで，深い学びに繋がる授業づくりをすることができるだろう。

５．熊四なわとびタイム（仮）について

令和６年度広島県小学校体育研究大会で体力向上の取組を発表する。保健安全体育部・体育主任と取組内容について連携を図り，児童が主体となる取組を計画的に進めていく。

６．検証の視点と方法

（１）児童，教職員の意識調査

①授業前と授業後の児童の変容（全体）

②体育科の授業づくりに関わる教職員の変容

（２）知識・技能の変容

・単元で見取る視点を学年で設定する。

例）「走り幅跳びの記録を 20ｃｍ伸ばす」・「ボールをもらえる場所に動いてシュートする」・「台上前転ができる」

・抽出児童を決め，単元前，単元後の児童の変容を見取る。（抽出児童は各クラス原則３名以下とする。）

７．研究計画

（１）体育科の授業改善の取組

①リフレクションタイムの明確化

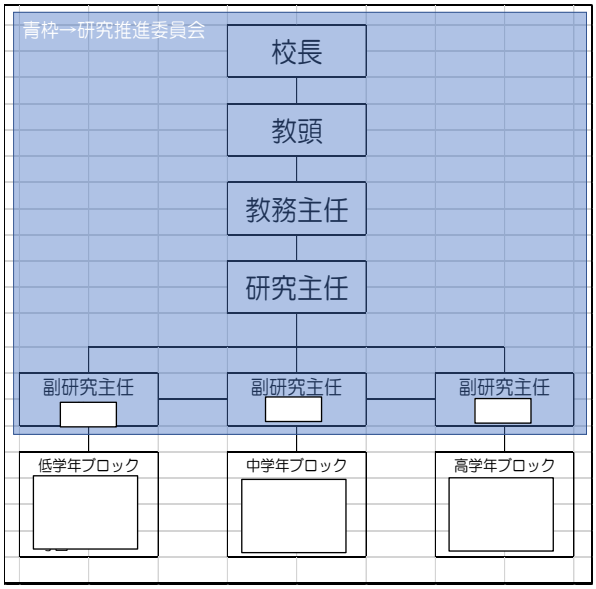
②PDCA サイクルを意識した授業づくり

③リフレクションタイムの派生

（２）研究組織（右記織図参照）

・今年度研究部は教務部に属す。

・各ブロックに研究副主任を配置し，ブロック内の調整を行う。



（３）研究の進め方

①全体研修について（全員参加）

・全体研修は原則水曜日に行う。

→当学級は授業数がプラス１

・全員が授業開始に間に合うように授業開始は通常の開始時刻より遅くする。

・体育館で実施できる単元が望ましい。

②ブロック研修について（参加者⇒校長・教頭・教務主任・研究主任）

・全体研修をする学級の相担は全体研修前後にブロック研修として同単元で行う。

・研究公開，全体研修をしない学年はブロック研修として授業を行うことも可。

・学習指導案起案の流れ

学年で作成⇒ブロック検討（ブロックメンバー・研究主任・管理職）⇒起案（1 週間前を目処）

⇒修正⇒職員全体へ配布・初任者研修の示範授業と兼ねることもできる。

・協議会は上記の授業参観者で行う。（協議会の日程や記録は副研究主任が調整する）

R6　研修計画

月　日	実施内容	備考
4月2日（火）	理論研（研究構想）研究の進め方	研究主任
4月１５～１９日	授業づくり・指導案・アンケート	研究主任
6月4日（火）	ブロック研修❶（全体研①事前）【３年２組】	
6月１２日（水）	全体研修①【３年１組】	講師 安田女子大学徳永教授
8月2日（金）	指導案検討会（県大会公開授業❷❸❹❺）	講師 安田女子大学徳永教授
9月3日（火） ～ 9月２０日（金）	ブロック研修❷❸❹❺ （県大会公開授業❷❸❹❺事前） 【２年１組】 【４年１組】 【５年１組】 【６年１組】	ブロック研修を行うかどうかは学年で相談して決定することとする。 【授業参観者】 管理職＋教務主任＋研究主任
１１月1日（金）	県大会公開授業❷❸❹❺ 【２年２組】 【４年２組】 【５年２組】 【６年２組】	講師 安田女子大学徳永教授 教育委員会指導主事
１月１７日（金）	ブロック研修❻（全体研③事前）【１年２組】	
１月２２日（水）	全体研修②【１年１組】	講師 安田女子大学徳永教授
3月中旬	研究のまとめ	研究主任